

# いっしょに大きく・・・ぼくもわたしもおやさい名人

2年生活 5月～7月 66Q (22時間)  
 附属新潟小学校 教諭 三星 雄大

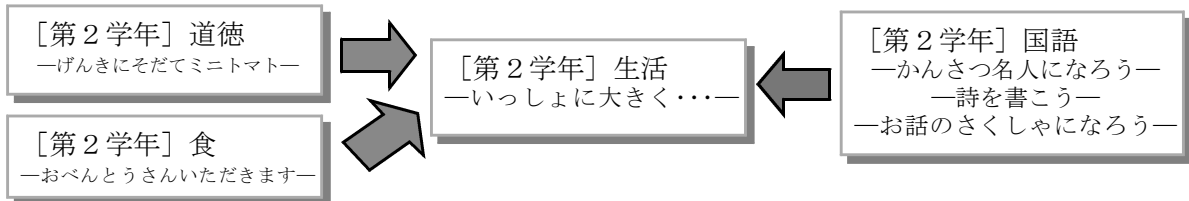
## 1 目指す姿

- **野菜の育て方を比較し、できるようになったことや分かるようになったことに気付く子ども**  
 具体的には、「最初は赤ちゃんだったトマト。今では、立派な大人になったよ。一人で大きくなったんじゃないよ。のどが渴いたら水をあげて、おなかがすいたら肥料をあげて、脇芽摘みもしたよ。最初は分からないことばかりだったけど、野菜の育て方がたくさん分かったよ。○○ちゃんありがとうってトマトも言っているよ」等と物語に表現する姿

## 2 育む資質・能力

	①知識や技能	②ツール活用能力	③見方や考え方	④態度
生活科	○野菜にも人間と同じ命があることに実感を伴って気付く ○できるようになったことや分かるようになったことに気付く	○ベン図 ○ウェビングマップ	○試したり、予測したりしながら野菜に直接働き掛ける ○自分と比べて、共通点や相違点を見いだす考え方 ○視点を変えて野菜をとらえる考え方	○継続的にお世話をすることで野菜を大切にしようとする ○自分の成長に気付く、意欲と自信をもって生活しようとする
道徳	○生命を大切にすること ○野菜のことを考えて自分にできることをしようとする			○生命を大切にすることのよさを実感を伴って理解し、日常生活に活かそうとする態度
各種教育(食)	○「いただきます」や「ごちそうさま」の意味をとらえる		○自分と食べ物を命のつながりという視点で関連付け、感謝の気持ちをもつ	○食事のあいさつの意味を理解し、心をこめてあいさつをする
国語	○視点を基に書く	○ウェビングマップ	○登場人物の性格や気持ちなどを想像して書く	

## 3 資質・能力の関連



## 4 単元の計画

	【学習活動】☆資質・能力	【働き掛け】	Q
生活 一次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 苗を見て、どの野菜かを当てる。 ・ 苗を見るのは初めてだな。どれがトマトの苗だろう</li> <li>○ <b>ぼくは、トマトが好きだし、家族に美味しいトマトを食べてほしいから野菜を育てたいです。</b></li> <li>○ <b>自分でお世話をし、おいしい野菜を作りたい</b></li> <li>○ 朝顔の鉢を使って、自分が購入した野菜の苗を植える。</li> <li>○ 毎日お世話をする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">☆資質・能力 生③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 苗を提示し、どの野菜かを当てさせる。</li> <li>※ 様々な苗をグループの数用意する。</li> <li>◆ 何のために育てたいのかを問う。</li> <li>◆ 作文シートに自分が育ててみたい野菜となぜ育てたいのかを書かせる。</li> <li>※ 育てる野菜を次の中から選ばせる。 トマト(中玉)・ミニトマト・きゅうり・なす・おくら・ピーマン・えだまめ</li> <li>※ 野菜の苗を買いに行く活動を設定する。</li> <li>◆ 農家の原さんに来ていただき、野菜の植え方やお世話の仕方について教えてもらう場を設定する。</li> </ul>	9 Q 3 時間

<p>国語 二次</p>	<p>○ 野菜を観察するときの視点に気付く。 <b>★資質・能力 国①</b></p> <p>○ 僕が育てているトマトは、赤くて丸い実を付けたよ。葉は緑で、手のひらよりも小さいよ。</p> <p>○ かまきりの性格や様子を言葉で表現していることに気付く。 ○ 野菜の視点に立って、変化をとらえる。 <b>★資質・能力 国③ 生③</b></p> <p>○ 私に花が咲いた ちょっぴり大人になった ちゃんと証拠もあるよでも…もっと大人になりたいな</p>	<p>◆ モデル文を提示して、どのようなことが書かれているかを問う。 ◆ 「やさいけんきゅうにつき」を書く場を設定し、気付いたことを価値付ける。 ※ 「やさいけんきゅうにつき」は、1Qで書かせる。单元終了まで取り組ませる。 ◆ 「おれはかまきり」の詩を読んで、おもしろいところを問う。 ◆ 自分が育てている野菜の詩を書く場を設定し、考え方を価値付ける。 ※ 「やさいうた」は、実ができたときと収穫のときに書かせる。 ※ 朝の会で、「やさいニュースのお時間です」のスピーチを設定し、日常的に野菜の情報を交換し合わせる。</p>	<p>30 Q 10 時間</p>
<p>各種教育(食) 三次</p>	<p>○ いただきますの意味をとらえ、これからの生活に生かそうとする。 <b>★資質・能力 食①③④</b></p> <p>○ 食べるということは、命を食べることだと分かった。もらった命が命になるからいただきますを言うんだ。食べ物を大切にしたい。</p>	<p>◆ いただきますの意味を問う。 ◆ 食材がどのようにして自分たちのところに届くのかを予想させる。 ◆ 「おべんとうさん いただきます」を読み聞かせ、再度いただきますの意味を問う。</p>	<p>3 Q 1 時間</p>
<p>道徳 四次</p>	<p>○ 野菜を大切にしようとする。 <b>★資質・能力 道①生①③</b></p> <p>○ 野菜の気持ちになって育てることが大切だ。</p>	<p>◆ 野菜のお世話をし、嬉しかったり悲しかったりしたことを問う。 ◆ 主人公は、どのような気持ちでミニトマトの苗に話しかけているのかを問う。 ◆ どのような気持ちで野菜を育てているのかを問う。</p>	<p>3 Q 1 時間</p>
<p>生活 五次</p>	<p>○ 原さんのように野菜を上手に育てられるようになりたい。</p> <p>上手に野菜を育てることができるようになるためにはどうしたらよいか</p> <p>○ 原さんは、毎日野菜の様子を見てお世話することを変えているんだ。</p> <p>○ 自分と原さんの野菜の育て方を比較し、どのようにお世話をしていけばよいかに気付く。 <b>★資質・能力 生③国①道①食①</b></p> <p>○ 葉っぱの色や様子、土の湿り方を見て、何が必要なかを考えるお世話が大切なんだ。僕もそうしたい。</p> <p>○ 見いだした野菜の育て方を実行する。 ○ 野菜を育て始めたときと比べてできるようになったことに気付く。 <b>★資質・能力 生①③</b></p> <p>○ 野菜の生長過程を絵本の形式でまとめ、できるようになったことや分かるようになったことに気付く。 <b>★資質・能力 生①③ 道④ 食③</b></p> <p>○ 最初は赤ちゃんだったトマト。今では、立派な大人になったよ。一人で大きくなったんじゃないよ。のどが渴いたら水をあげて、おなかがすいたら肥料をあげて、脇芽摘みもしたよ。最初は分からないことばかりだったけど、野菜の育て方がたくさん分かったよ。○○ちゃんありがとうってトマトも言っているよ。</p>	<p>◆ 困ったことや分からないことを問い、あこがれを抱く野菜を提示する。 <b>【働き掛け1】</b></p> <p>国語の「お話のさくしゃになろう」の学習を始める。</p> <p>◆ 「まねっこ活動」(原さんと一緒に日常的な仕事に取り組ませる活動)を行わせる。 <b>【働き掛け2-①】</b></p> <p>◆ 「まねっこ活動」(原さんと一緒に日常的な仕事に取り組ませる活動)を行い、分かったことや考えたことを問う。 <b>【働き掛け2-②】</b></p> <p>◆ 解決方法を選択させ、自分の育て方と原さんの育て方との共通点や相違点を見いださせる。 <b>【働き掛け3-②】</b></p> <p>◆ これからどのように育てたいかを問い、作文に記述させる。 <b>【働き掛け3-③】</b> ※この後、見いだした育て方を実行する場を1週間設定する。</p> <p>◆ 野菜を上手に育てられるようになったかを理由と共に問う。 <b>【働き掛け4-①】</b></p> <p>◆ 自分と野菜が登場する「いっしょに大きく…-おやさいものがたり-」を書かせる。 <b>【働き掛け4-②】</b> ※ 物語に書くことは次の四点である。發揮されると考えられる資質・能力は、次のとおりである ①野菜の変化(資質・能力 国①) ②自分の行為(資質・能力 生①③ 道①) ③自分の気持ち(資質・能力 道①食③) ④野菜の気持ち(資質・能力 生①) ※ ①~④の視点を与えて書かせる。登場人物は、自分と自分が育てている野菜である。</p>	<p>21 Q 7 時間</p>